

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

## 概要

Cisco Unified Contact Center Express (UCCX) では 8.0、プレイバックになくプロンプト、また .wav ファイルを保存できません。このドキュメントでは、この問題のトラブルシューティング方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は Cisco Unified Contact Center Express 8.0 に基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

### 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 問題

UCCX 8 にスクリプトを置くことを試みるときこの機能ははたらきません。プレイバックになくプロンプト、また .wav ファイルを保存できません。

### 解決策

UCCX 8 では、プロンプトをアップロードする方法は UCCX 7 と異なっています。それは wfavvid のプロンプトを表示できる Windows バージョンとは違ってです。バージョン 8 では、それらは保存されるリポジトリにアップロードされます。

Cisco AutoAttendant は Cisco Unified CCX エンジンで保存される歓迎されたプロンプトしか使用できません。カスタマイズされた歓迎されたプロンプトを使用するために Automated Attendant を設定するためにサーバにそれをアップロードし、Cisco 適切な AutoAttendant 例を設定して下さい。

UCCX 8. にスクリプトを置くためにこれらのステップを完了して下さい。

1. Cisco Unified CCX 管理を開始するために Web ブラウザの <http://servername/AppAdmin> を開いて下さい。
2. Cisco Unified CCX 管理 メインメニューから、> **プロンプト 管理** を『Applications』を選択して下さい。注 敏速な管理ウィンドウは表示されます。
3. 言語ディレクトリ ドロップダウン メニューから、特定のプロンプトがアップロードする必要がある言語をおよびディレクトリを選択して下さい。
4. 新しいプロンプトを追加するためにこれらのステップを完了して下さい: **追加を新しく敏速なハイパーリンク** クリックして下さい。注 敏速なファイル名 ダイアログボックス ディスプレイ。File ダイアログボックスを選択するために『Browse』をクリックして下さい。ソース .wav ファイル フォルダーにナビゲートし、Cisco Unified CCX エンジンにアップロードしたいと思う .wav ファイルをダブルクリックして下さい。宛先ネーム フィールドの選択を確認するために Name フィールドをクリックして下さい。 .wav ファイルをアップロードするために、.wav ファイルをアップロードするために『Upload』をクリックして下さい。注 システムはアップロードが正常だったことメッセージを表示する。 **敏速な管理** ハイパーリンクへの戻りをクリックして下さい。敏速な管理ウィンドウのウィンドウ更新およびファイル ディスプレイ。

## 問題

dates.xml ファイルを読むように試みる間、このエラーメッセージが現れます:

```
%MIVR-SECURITY_MGR-2-EXCEPTION:java.security.AccessControlException: java.io.FilePermission dates.xml
```

または

currentstate.xml に書くように試みる間、このエラーメッセージが現れます:

```
%MIVR-SECURITY_MGR-2-EXCEPTION:java.security.AccessControlException: java.io.FilePermission currentstate.xml
```

## 解決策

資料 リポジトリにアップロードされる XML 資料にアクセスする間、CreateFileDocument は必要ではありません。読まれるべき XML 資料を参照するために CreateXMLDocument ( DOCS [test.xml] ) 単に使用して下さい。リポジトリにアップロードされないファイルにアクセスすれば、ファイルがスクリプトで最初にアップロードされ、次に参照する必要があることが推奨されます。詳細については Cisco バグ ID CSCti89552 ( [registeredcustomers だけ](#) ) を参照して下さい

。

## 関連情報

- [UCCX 8.0 : アプリケーションが作成または更新されたときにエラーが発生する](#)
- [UCCX : エージェント デスクトップにログインできない](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)